

令和 4 年度

教育に関する事務の管理及び執行状況の点検評価

日南町教育委員会（令和 5 年 7 月 5 日審議決定）

『教育に関する事務の管理及び執行状況の点検・評価』は、平成20年4月1日に施行された「地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和31年法律第162号）」の一部改正により、新たに「教育委員会は、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない」ことが法第26条第1項に規定されたことに基づき、令和4年度における日南町教育委員会の事務の管理及び執行状況について、点検・評価し、その結果をとりまとめるものである。

日南町教育委員会は、『令和4年度 日南町教育の目標』を定め、これに基づき、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について、点検及び評価することによって、課題や取り組みの方向性を明らかにし、より効果的な教育行政の推進を図るものである。

教育に関する事務の管理及び執行状況の点検評価

評価	点検・評価基準	達成率目安
A	期待以上の成果・効果を得た。	90%以上
B	目標・目的をおおむね達成（計画どおり推進）した。	70%程度
C	取り組みがやや遅れた。（成果・効果が現れにくかった。）	50%程度
D	取り組みの大幅な見直し・廃止が必要である。	30%以下

I 学校教育、幼児教育

1 ふるさとを愛し、知・徳・体の調和のとれた子どもの育成

(1) ふるさとを生かした体験的な教育の展開

目 標	成 果 指 標	評 価	評 価	実施状況（・） 成果（○） 課題（▲）
①日南町に愛着と誇りを持った人材を育てていくため、自然・伝統・文化等の優れた地域資源を活用した「ふるさと教育」を進める。特に、「木育」・「日南学」等の推進を図り、教材化の充実も進める。	・小1から中3まで全学年で地域人材、地域資源を活用した「ふるさとキャリア教育」の計画的な実施	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・「日南学」を1年間行ってみて、カリキュラムの見直しや園小中の取り組みの相互確認を進めている。 ○多くのサポーター、ボランティアの方にかかわってもらい、充実した活動を行うことができた。 ▲保育教諭、教職員が日南町の自然・伝統・文化等に関心をもち、「日南学」の充実を図ることが求められる。
②自然体験や文化的な活動など種々の協同の活動や遊びを通して多様な経験を保障する。	・自然体験や「本物に触れる」体験等の実施	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校で日南神楽、小学校でオオサンショウウオの学習、こども園でアユの放流など行った。 ○自然体験や文化的な活動を積極的に取り入れ、体験活動を充実することができた。 ▲系統性を確認し、ねらいのすりあわせを行う必要がある。
③日南町で生活・活動する人々と関わりながら、園、学校、家庭、地域が連携した教育活動及び保育を展開する。	・地域人材、地域産業等を活かした体験学習の実施	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校での「先輩に学ぶ」、小学校での「リンゴ栽培」、こども園での「薪割り体験」など地域の多くの方が参加された。 ○地域の方の話を聞いたり、地元の産業の一端を体験したりすることによって、子どもたちの地域に対する視野を広げることができた。 ▲活動のねらいをはっきりさせるために、事前の打ち合わせを入念に行う必要がある。
	・学校支援ボランティアを活用した教育活動の実施	B		

(2) 学習の基礎・基本の定着、基本的な生活習慣の定着

目 標	成 果 指 標	評 評	実施状況 (・) 成果 (○) 課題 (▲)
<p>①家庭との連携を深め、学習習慣や基本的な生活習慣の定着を図る。</p> <p>②運動や食事、生活リズムなどを改善し、基本的な生活習慣に関する実践的な態度を育てる。</p>	<p>・ i-Check による「学習習慣」に関する肯定的回答 (全国平均)</p> <p>・ i-Check による「生活習慣」に関する肯定的回答 (全国平均)</p> <p>・ i-Check による「授業以外での運動習慣」に関する回答 (週2日以上割合の全国平均)</p>	<p>B</p> <p>C</p> <p>C</p> <p>C</p>	<p>・ 日々の指導や家庭学習がんばるウィークの実施、保健指導等により、好ましい学習習慣や生活習慣作りを目指している。</p> <p>・ i-Checkによる生活・学習習慣に関する肯定的回答</p> <p>学習習慣 全国平均と同等以上6学年 (小1、小2、小3、小4、小5、小6)</p> <p>生活習慣 全国平均と同等以上2学年 (小2、中3)</p> <p>授業以外での運動習慣 全国平均と同等以上4学年 (小3、小4、小6、中3)</p> <p>○学習習慣は、小学校で定着している。</p> <p>▲望ましい生活習慣や運動習慣、中学校の学習習慣の定着は、引き続き大きな課題である。学校での子どもたちへの指導に加え、保護者への情報提供や啓発によって実態や目標を保護者と共有し、家庭との協力で改善を図ることが必要である。</p>
<p>③保育教諭・教職員が子どもの学びや育ちを支えるための系統性や指導の手立てを具現化し、指導力の向上を目指した研修を奨励する。</p>	<p>・ 校 (園) 内研修や授業研究会の計画的実施</p> <p>・ 教職員の外部研修への積極的参加</p>	<p>B</p> <p>B</p>	<p>・ 小中学校ですべての指導者が、公開授業を行うことができた。</p> <p>・ 園小の研修でアプローチ・スタートカリキュラムの成果発表をすることができた。</p> <p>・ 新宿せいがこども園の視察ができた。</p> <p>○各校で計画的に研究推進が図られている。</p> <p>▲園小中の授業づくりについて、検討・共通実践ができなかった。</p>

(3) 豊かな人間性と社会性の育成			
目 標	成 果 指 標	評 評	実施状況 (・) 成果 (○) 課題 (▲)
①人と人との関わり、ルールやマナーを重視した保育と学習、そして生活を展開し、コミュニケーション能力、社会的規範意識や道徳的判断力を備えた子どもを育成する。	・ i-Check による社会性 (思いを伝える力) に関する肯定的回答 (全国平均)	A	<ul style="list-style-type: none"> ・園や学校は、学習や日常生活、行事等を通して、社会性や道徳性の育成に取り組んでいる。 ・ i-Checkによる社会性に関する肯定的回答 <ul style="list-style-type: none"> 社会性 (発信力) 全国平均と同程度以上8学年 (小1、小2、小4、小5、小6、中1、中2、中3) 社会性 (規範意識) 全国平均と同程度以上6学年 (小2、小4、小5、小6、中1、中3) ○コミュニケーション力の育成を意識した取り組みの成果が現れている。 ○規範意識も高まっている。
	・ i-Check による社会性 (規範意識) に関する肯定的回答 (全国平均)	B	
②道徳教育や人権教育 (保育) の充実を図り、他者への理解や思いやりの心など豊かな心と道徳的实践力を育成する。	・ 道徳や人権教育の年間指導計画に沿った実施。	B	<ul style="list-style-type: none"> ・道徳や人権教育は年間指導計画に基づいて指導が実施されている。 ・ i-Checkによる「親切・思いやり」に関する肯定的回答 <ul style="list-style-type: none"> 全国平均と同程度以上4学年 (小1、小2、小4、小6) ○道徳の授業づくりの工夫や人権教育の確実な実施が図られている。 ▲児童生徒の道徳性をさらに高めるため、全教育活動における横断的な取り組みが必要である。
	・ i-Check による「親切・思いやり」に関する肯定的回答 (全国平均)	C	
③海外派遣事業や国際交流事業、小中学校における外国語活動や英語科等を通して、グローバル社会で生き抜く人材の育成を図り、国際感覚とコミュニケ	・ 海外派遣事業の実施	A	<ul style="list-style-type: none"> ・4年ぶりに海外派遣を実施し、17人を派遣することができた。 ・中学校はシアトル、小学校はモンゴルとオンライン交流を行った。 ・英検の受検結果 <ul style="list-style-type: none"> 準2級合格 (0/1) 3級合格 (11/15)
	・ 国際交流事業 (交流学习) の実施 (年1回以上)	A	

ーション能力を培う。	・生徒の英検合格率75%以上	B	4級合格 (7/15) 5級合格 (11/22) 全体合格率 57% ○海外派遣に向けて、1月より週1回英会話教室を行い、コミュニケーション力を高めることができた。 ○活発なオンライン交流ができた。 ▲昨年より、全体の合格率は下がった(昨年67%)が、3級合格者が増えた。
④キャリア教育の充実を図り、自らの進路や職業について展望を持って意欲的に生活する児童生徒を育成する。	・ふるさとキャリア教育の計画的な実施	B	・各学年の指導計画の見直しと、それに沿った学習活動が実施されている。 ・i-Checkによる「夢や目標を持っている」という項目の肯定的回答 全国平均と同程度以上5学年(小1、小2、小3、小5、中3) ○キャリアパスポートの作成、小中学校におけるふるさとキャリア教育の年間指導計画の見直し等が実施された。 ▲児童生徒が意欲的に学習や生活ができるよう、将来の夢や目標を具体的に考える機会を作るなど、ふるさとキャリア教育の充実を図る必要がある。
	・i-Checkによる「夢や目標を持っている」という項目の肯定的回答(全国平均)	C	

2 園・小・中の連携による教育と学力向上の推進

(1) 園・小・中の連携による教育の推進

目 標	成 果 指 標	評 価	評 価	実施状況(・) 成果(○) 課題(▲)
①園児・児童・生徒の学びの意欲と確かな学力を着実に高めていくために、園	・園小合同研修会、小中合同研修会の実施(年3～5回)	B	C	・園小中合同研修会4回開催 ・学校評価アンケート(自己効力感、協同学習についての質問項目)の肯定的回答

・小・中一貫教育ビジョンに基づいた継続性、系統性、一貫性のある保育と教育の実践と充実を図る。	・保護者アンケートによる肯定的回答（80%）	C	小学校50% 中学校81% ○育てたい力を校内に掲示するなどして全職員が共有し、園・小・中一貫教育ビジョンにもとづいた教育活動を行った。 ▲取り組みを継続したり、さらに強化したりしていくことにより、定着させる必要がある。
	・継続性、系統性、一貫性のある教育活動の実施	C	
②学年や校種を越えた集団的な活動を行う中で、自分の成長過程と将来的見通しを実感できる生活や学習活動を展開する。	・異学年活動や園・小・中の交流活動の実施	B	・こども園の異年齢交流、小学校のPSP（パーフェクト・スクール・プロジェクト）、中学校の体育祭や文化祭など多くの活動に取り組んだ。 ○園・小・中の交流活動が盛んに行われた。 ○小学校のPSPなど児童生徒が自主的・主体的に活動することができた。
	・児童会・生徒会活動、学校行事等における児童生徒の自主的・主体的活動の実践	B	
③読み聞かせや読書活動等を継続的に取り入れ、豊かな心や創造力等の育成に努める。	・こども園や小学校における読み聞かせ等の実施（5回以上/年）	A	・学校支援ボランティアによる読み聞かせは、小学校で9回実施された。 ・朝読書は、小中学校ともにほぼ毎日実施された。 ・各こども園では、司書による読み聞かせを月1回実施している。 ○学校司書の配置等により、子どもが図書館に行く頻度等も増えている。
	・小・中学校における朝読書の実施（毎日）	A	

（2）学力向上の推進		評	評	実施状況（・）成果（○）課題（▲）
目 標	成 果 指 標			
①学力を支える非認知能力の向上を目指した取り組みを幼児期から一貫して行うことにより、意欲的な学びの態度や学習習慣を身につけさせる。	・i-Checkによる「学習習慣」に関する肯定的回答（全国平均）	B	B	・授業や家庭学習についての指導等、個々の児童生徒の実態に応じて、学習意欲の向上や学習習慣作りに取り組んでいるが、全体的な成果が見えにくい。 i-Checkによる生活・学習習慣に関する肯定的回答 学習習慣 全国平均と同等以上6学年（小1、小2、小3、小4、小5、小6）

				○小学校ではICTを活用し、家庭学習の習慣が身についている。 ▲中学校では、家庭学習のやり方などを個別で指導する必要がある。
②基礎的な学力を保障するために、指導力向上に向けた研修を積極的に行い、わかる授業の創造、授業法の工夫改善を進める。	・校（園）内研修や授業研究会の計画的実施	B	B	・校内授業研究会は、小学校で7回、中学校で4回実施された。 ・県教育センターの計画する研修には、小学校延べ23名、中学校延べ5名が参加した。 ○各校で計画的に研究推進が図られている。 ○オンライン研修が増加しているが、参加のしやすさにより、研修の機会の確保につながっている。
③児童生徒の学力の現状及び課題を把握・分析し、具体的な手立てを講ずるとともに、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善やICT活用教育を推進する。	・全国学力・学習状況調査や標準学力調査の結果分析及び対策の実施	B	B	・各校で結果分析を実施し、具体的手立てを検討・実施するとともに、保護者にも周知している。 ・全国学力・学習状況調査の過去問や類似問題を授業の中で活用したり、補充学習を実施したりするなど、授業改善と児童・生徒の課題の克服につなげるよう努めている。 ○学年によっては、標準学力調査でも改善の結果が表れている。 ▲学年による差が大きいため、継続的な取り組みが必要である。
④英検受検やモンゴル日本語教室との交流、海外派遣事業等を通じて、グローバル化に対応した英語教育や異文化理解の推進に努める。	・海外派遣事業の実施	A	A	4年ぶりに海外派遣を実施し、17人を派遣することができた。 ・中学校はシアトル、小学校はモンゴルとオンライン交流を行った。 ・英検の受検結果 準2級合格 (0/1) 3級合格 (11/15) 4級合格 (7/15) 5級合格 (11/22) 全体合格率 57% ○海外派遣に向けて、1月より週1回英会話教室を行い、コミュニケーション力を高めることができた。 ○活発なオンライン交流ができた。 ▲昨年より、全体の合格率は下がった (昨年67%)
	・国際交流事業（交流学习）の実施（年1回以上）	A		
	・生徒の英検合格率75%以上	B		

				が、3級合格者が増えた。
--	--	--	--	--------------

(3) 乳幼児期からの教育の充実				
目 標	成 果 指 標	評	評	実施状況 (・) 成果 (○) 課題 (▲)
① 基本的な生活習慣の定着、子どもの主体性の育成等、園小の教育内容や指導法について共通理解を図り、こども園と小学校の円滑な接続に努める。	・子ども支援連絡会議、保小連携会議、ケース会議等を活用した支援体制の構築	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・ コロナ関係で延期もあったが、情報共有や引継ぎなど各会議とも概ね計画通りに実施された。 ・ 園小合同研修会でアプローチカリキュラム、スタートカリキュラムの見直しを全職員で実施することができた。 ○支援担当職員との連携により、一人一人の子どもの状況等を共有し、適切な支援の実施に努めた。 ▲園・小・中一貫教育の実践においては、今後さらなる具体的な実践につなげていく必要がある。
	・保育要録、支援シートを活用した情報共有と移行支援会議の実施	B		
	・アプローチカリキュラム、スタートカリキュラムの活用、実践	B		
② 幼児期の終わりまでに育ってほしい「10の姿」に照らした環境整備や体制づくりを進め、幼児教育の充実に努める。	・園内研修や公開保育、カンファレンスの計画的な実施	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・各クラス月1回の支援担当とのカンファレンスを実施し、職員への支援も実施できた。 ・各園で計画訪問、公開保育を実施した。 ○先進園からの学びとして、新宿せいがこども園の視察や講演会を実施し、学びを深めることができた。 ▲園内研修を計画的に実施できておらず、今後年間計画を立て実施していきたい。

3 家庭・地域と連携した教育の推進

(1) 学校・家庭・地域の連携による子どもの育成

目 標	成 果 指 標	評 評	実 施 状 況 (・) 成 果 (○) 課 題 (▲)
①学校、家庭、地域が一体となって、子どもの教育活動を支援する体制・組織・環境を確立するとともに、積極的な情報発信に努める。	・学校と地域コーディネーターとの連携・協働	B	<ul style="list-style-type: none"> ・地域コーディネーターの配置により、学校と連携を図りながら、CSサポーターの活用を図った。 ○地域コーディネーターにより、幅広くボランティアを募ることができている。様々な方が支援してくださり、子どもたちの学習が充実した。 ○CSサポーター連絡協議会で学校管理職とも意見交換ができた。 ▲CSサポーター連絡協議会を4回(1回/3ヶ月)しか開催できなかった。
	・CSサポーター連絡協議会の定期的開催(1回/2ヶ月)	C	
	・町報やHPでの情報発信	B	
②学校運営協議会の充実に努めるとともに、地域コーディネーター・CSサポーターなどによる学校支援活動を効率的、組織的に進める。	・学校運営協議会の開催(年6回以上)	A	<ul style="list-style-type: none"> ・学校運営協議会は年6回開催された。 ・町報、CSだよりを発行し、広報活動に努めた。 ・県CS研修会に学校運営協議会委員も参加し、研鑽を深めた。 ○学校運営協議会が立ち上がり、めざす子ども像などについて積極的に熟議が行われた。 ▲今後、学校と運営協議会が一体となった学校運営の充実が求められる。
	・学校支援ボランティアの積極的・計画的活用	B	

(2) 保護者研修や家庭教育支援の充実

目 標	成 果 指 標	評 評	実 施 状 況 (・) 成 果 (○) 課 題 (▲)
①日常生活の中で大人がより良い人間関係のモデルとなり、家庭、学校及び地	・家庭教育講演会や保護者研修会の実施(年2回)	A	A <ul style="list-style-type: none"> ・家庭教育講演会を開催し、多くの町民に聴講してもらえるようYouTube配信も行った。 ・就学時検診では、新入学児童保護者を対象に、鳥

域で大人が具体的な姿を示していくよう家庭教育に関する意識の高揚と家庭教育の向上に努める。				大医学部角南先生の講演会を実施した。 ○家庭教育講演会では、これからの時代の教育について講演いただき、新たな学びにつながった。 ▲子育て世代の保護者が参加したくなる研修を検討していく必要がある。
②家庭教育推進員やスクールソーシャルワーカーを配置し、関係機関と連携した相談活動、支援活動等に努め、家庭教育支援の充実と連携強化を図る。	・家庭教育推進員による「共育いちい」の発行やHPによる情報提供と啓発	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭教育推進員を9月から1名配置、「共育いちい」の発行、HPでの子育てに関するイベント情報の発信等、保護者への情報発信を行った。 ・家庭教育支援チームの先駆けとして年長児、小学校1年生の家庭訪問を実施した。 ○家庭教育支援協議を定期的実施し、推進員、支援員、SSWとの連携を深めることができた。 ▲家庭教育支援チーム発足と、より充実した支援につなげるため、他機関との連携が課題となる。
	・家庭教育推進員やスクールソーシャルワーカー等が連携した家庭教育支援の実施	B		

4 学校教育を支える教育環境の充実

(1) 創意工夫を生かした特色ある学校運営の推進

目 標	成 果 指 標	評	評	実施状況（・）成果（○）課題（▲）
①研修や教職員評価・育成制度を積極的に活用し、教職員の意欲や資質の向上を図るとともに、授業や学校運営の改善を図る。	・学校自己評価の実施	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・各学校で、児童生徒の実態や教育活動の実施状況等を踏まえた学校自己評価が行われた。 ・教職員評価・育成については、管理職との連携を図りながら実施した。 ○評価結果の公開等、計画的に実施された。 ▲評価結果を改善のための具体的方策につなげる必要がある。

<p>②地域人材の活用や地域との連携等による開かれた活力ある学校づくりを推進する。</p>	<p>・CSサポーターの活用 (ボランティア延べ人数年800人以上)</p>	<p>C</p>	<p>C</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・こども園、小学校、中学校とも積極的に地域人材の活用を図り、学習活動・体験活動が充実した。 ・新型コロナウイルス感染の影響もあり、ボランティアは年間で延べ364名の活用があった。 ・小学校では年間を通して、特別非常勤講師に1年生と5年生がお世話になった。 ・地域コーディネーターを1名配置し、学校と地域をつなぐ役割を担ってもらった。 <p>○学校の要望に応じて様々な方の支援をいただき、学習が充実した。</p>
-----------------------------------------------	--------------------------------------------	----------	----------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

(2) 安全・安心で質の高い教育環境の整備

目 標	成 果 指 標	評	評	実施状況 (・) 成果 (○) 課題 (▲)
<p>①学校内外の安全確保、危機管理体制の充実を目指した機能的な学校環境を整備する。</p>	<p>・学校危機管理マニュアルの点検と整備</p>	<p>A</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・各学校で危機管理マニュアルの見直しが行われ、教育委員会に提出された。 ・安全点検については、こども園、小学校、中学校ともに毎月実施され、遊具については、業者による点検も実施した。 <p>○児童生徒の安全確保のため、学校と連携しながら施設・設備の管理を行った。</p> <p>▲老朽化等による破損等がある箇所は、安全のために適宜対応していく必要がある。</p>
	<p>・学校の安全点検の徹底と指導 (月1回)</p>	<p>A</p>	<p>A</p>	
<p>②ICT環境、学校図書館及び教材整備の充実に努め、質の高い教育が受けられる教育環境を整備する。</p>	<p>・ICT機器等、学習や生活の充実のための施設、設備、教材等の整備</p>	<p>B</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・iPadやPC等のICT機器の整備・管理を進めている。 ・小学校に新たにeラーニング教材を導入した。 ・ICT支援員の委託により、研修や授業支援が充実した。 <p>・学校司書が中心となり、町図書館とも連携を図りながら蔵書の充実に努めた。</p> <p>・小中学校ともに無線LAN環境の改善を行った。</p> <p>○ICT機器の活用が日常的に行われるようになるなど、活用の推進が図られている。</p>
	<p>・司書教諭、学校司書、図書支援ボランティア等が連携した学校図書館の充実</p>	<p>B</p>	<p>B</p>	

				▲中学校では、iPadの持ち帰りなど、より積極的な活用を進める必要がある。
--	--	--	--	---------------------------------------

(3) いじめ・不登校等に対する対応強化

目 標	成 果 指 標	評 価	評 価	実施状況（・）成果（○）課題（▲）
①スクールソーシャルワーカーやスクールカウンセラーの活用、迅速な組織対応等により、子どもの実態に応じた生徒指導を通して、いじめ・不登校などの生徒指導上の諸課題の未然防止、早期対応に向けた取り組みを強化する。	・生徒指導上の諸課題の未然防止、早期対応に向けた取り組みの実施	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・情報交換を密に行い、ケース会議などでは、SSWやSCからの情報提供をもとにアセスメントを行うことができた。 ○長期的な目標のもとに児童・生徒の指導方針を検討することができた。 ▲ケースによっては児童・生徒・保護者への対応が遅れることがあった。
	・生徒指導上の諸課題への組織的対応の強化	B		

(4) 特別支援教育及び心の教育の充実と組織・体制づくり

目 標	成 果 指 標	評 価	評 価	実施状況（・）成果（○）課題（▲）
①特別な支援を必要とする幼児児童生徒が、その種類や程度に応じた教育が受けられるよう特別支援教育支援員の配置等、支援体制や仕組みを整える。 (子ども支援連絡会議、就学支援委員会等の支援体制の充実と活性化)	・子ども支援連絡会議の定期開催（月1回）	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・子ども支援連絡会議は、概ね月1回（年間9回）開催した。 ○各学校で組織的対応が意識され、改善や早期解決に至ったケースもあった。 ▲改善が見られなかったり、問題が長期化したりしているケースもあった。 ▲教員だけで対応するケースもあり、SSWやSC等の外
	・個別の支援計画、個別の指導計画及び支援シートの整備・活用	B		

	<ul style="list-style-type: none"> ・就学支援委員会の開催等、適切な就学支援の実施 	B		部人材の活用が不十分な面があった。
②いじめや不登校、家庭の問題に起因する生徒指導上の問題の解決や教育相談活動の充実のため、人的配置や関係機関との連携を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・スクールソーシャルワーカーの配置や各機関の役割を明確にした支援体制の構築 	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・SSWが連携しつつ、こども園から中学校まで幅広く支援に取り組めるよう、様々な取り組みを行った。 ・生徒指導上の問題等に迅速に対応する組織運営が各学校で整えられた。 ○各学校で個々の問題に対して丁寧に対応され、早期解決に至ったケースもあった。 ▲不登校等、生徒指導上の問題が長期化しているケースもあった。今後も改善のための取り組みの継続が必要である。
	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめや不登校、生徒指導上の諸問題に迅速かつ適正に対応できる学校体制の構築 	B		
③高校教育への丁寧な接続と進路指導に努める。	<ul style="list-style-type: none"> ・高校教育の在り方を視野に入れた進路指導の充実 	B	B	

II 社会教育

1 社会教育の充実と生涯学習の推進

(1) 学習の機会・成果発表の場の提供と充実

目 標	成 果 指 標	評 評	実施状況（・）成果（○）課題（▲）
①町民誰もが長寿社会を心豊かに過ごせるような学びを進めることができるよう、町民のニーズに合った生涯学習講座を開催し、学習の機会づくりを行う。	・各機関と連携し、成人層を対象とした生涯学習講座の開催（参加者数 平均20人以上、満足度85%以上）	A	<ul style="list-style-type: none"> ・にちなん町民大学 12講座計画（うち1講座講師事由により中止） 平均参加者数38.0人 満足度 85.37% ・やさしい国語 6回開催 受講生28人 満足度96.29% ・オンライン文化教室 6回開催（3講座各2回）受講生延べ68人 ○現役世代も参加しやすくするため「やさしい国語」の開催日を土曜日としたり、オンライン文化教室を開講したりした結果、新規受講者を獲得できた。
	・高齢者を対象とした、自主的運営による「人生学園」の学園運営への支援実施（年間10回開催、新規入園生5人以上）	B	<ul style="list-style-type: none"> ・11回計画（うち1回感染症拡大により中止） ・園生52人（うち新規入園3人） ○コロナの感染症拡大対策で町外研修を中止とした。「たったもカード」「観光から見る日南町の魅力」など日南町の行政課題などを取り上げたり、寄木細工やペーパークラフト、クレパス画などの体験学習を全体学習を行ったりして住民の学習意欲の向上を図った。
	・独身者、親世代など広く町民を対象にしたセミナー	D	<ul style="list-style-type: none"> ・町民対象啓発セミナー 1回 参加者 6人

	やイベントなどの婚姻事業の実施			<ul style="list-style-type: none"> ・魅力アップセミナー 2回 参加者 11人 ・1泊2日バスツアー 参加者 21人 ・結婚相談所登録相談会 3回実施 (5人参加) <p>○相談会参加者など新規3人が入会。新規・継続者をともに相談所のフォローを受けながら、活動を行っており、順調な交際をしている者もいる。</p> <p>▲町民対象のセミナー参加者が減少傾向にある。事業開始から5年が経過し、結婚対策事業における教育課の啓発的役割は、一定以上果たしたのではないか。</p>
②町民の生きがい、やりがいとなり、町民が活躍できる場が広がることを目指し、学習の成果を発表できる場の提供を継続して行う。	・「にちなん文化展」や常設作品展示コーナーなど作品発表の機会の確保	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・第9回にちなん文化展を開催した。 ・常設作品展示コーナーに、文化協会加盟団体の作品を展示した。
	・芸術文化活動への関心の高揚、文化活動人口の底辺拡大と活性化。 (ふる里まつりの出展者・団体 計60以上)	A		<ul style="list-style-type: none"> ・展示出展者 計54組 (うち新規出展4組) 来場者 2,490人 ・芸能発表 出場者7組(41人)、観客数100人
③学習活動の活性化を図るため、活力ある文化団体等支援助成金による支援を継続して行う。	・ふる里まつりにおける活動報告の実施	A		<ul style="list-style-type: none"> ・ふる里まつりにおいて、活動写真や太鼓等の展示を各団体が行った。
	・活力ある文化団体等への活動助成金交付 (申請数 20団体以上、新規2団体以上)	C	B	<ul style="list-style-type: none"> ・活力ある文化団体等助成事業 申請12団体 (新規1団体) <p>▲活動団体の発掘、事業周知が必要と考える</p>

(2) 文化施設を活用した文化振興				
目 標	成 果 指 標	評	評	実施状況 (・) 成果 (○) 課題 (▲)
①文化芸術活動の拠点である日南町総合文	・総合文化センターの施設・設備等を点検し、改修を	B	B	・多目的ホールの映像設備を更新したほか、館内

<p>化センターについて、引き続き指定管理者制度を活用して町民目線の文化芸術活動を推進する。</p>	<p>計画的に実施する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・総合文化センター自主事業の実施（年間6公演） 		<p>トイレ手洗いの自動水栓化などを行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・キャシー中島特別講演会 240人 ・にちなん音楽祭OTOまつり 90人 ・ブラスフォレスト 150人 ・国際芸術祭「芸術列車」60人（YouTube視聴415人） ・宝くじ文化公演（上妻宏光・佐藤竹善）500人 ・にちなんダンススクール発表会 130人 ・ふる里まつりにてVR・プログラミング体験 ・にちなんダンススクールが10月より活動再開。 <p>▲老朽箇所の修繕及び更新を計画的に進める。</p>
<p>②日南町総合文化センター内の多目的ホール、研修室などを町民の文化芸術活動の場として積極的に利用していただき、活動の活発化を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・指定管理者への委託による適正な運営と管理 ・団体と文化センターとの結びつきの強化 	<p>B</p> <p>B</p>	<p>B</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年間利用者数 23,015人（前年比92.5%） ・エントランスの文化協会常設展示により、作品を来場者に見ていただく機会を設けた。 ・芸能発表大会を3年ぶりに有観客にて開催。

(3) 生涯学習を行う文化団体、個人の支援

目 標	成 果 指 標	評 評	実施状況（・）成果（○）課題（▲）
<p>①社会教育推進員を配置し、生涯学習を行う団体や個人を支援し、社会教育の充実と連携強化を図る。</p> <p>②地域の生涯学習の拠点である各まち（むら）づくり協議会との連携をさらに深める。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・町や各地域における各種行事、取組に対する支援及び情報交換、連携。 ・まち（むら）づくり協議会との連携と情報の共有化 ・地域での主体的な学習・活動に対する協力や支援 	<p>C</p> <p>C</p> <p>C</p>	<p>C</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特色ある地域活動補助金を6地域に交付した。 ・社会教育推進員を配置。学習団体の活動訪問等を実施したほか、人生学園の補助や学校運営協議会の活動を通し、生涯学習や子どもの育成に広く関与した。

③社会教育委員の研修を充実し、資質の向上を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・研修会の開催（年1回以上） ・委員の社会教育事業への参画 	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・委員研修（町教委主催2回、県主催2回） ○町内の社会教育関連施設視察研修を行い、現状と課題の把握を行った。 <ul style="list-style-type: none"> ・にちなんっ子クラブへの参画
--------------------------	------------------------------------------------------------------------------------------	---	---	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

2 青少年の育成・家庭教育の充実

(1) 「ふるさと教育」の推進

目 標	成 果 指 標	評	評	実施状況（・）成果（○）課題（▲）
①日南町に誇りと愛着を持ち、将来の地域の担い手となるような人材の育成に努める。	<ul style="list-style-type: none"> ・日野郡3町で行う「ふるさと教育」の推進 公設塾「まなびや縁側」の充実と塾生の確保 (町内在住高校生の利用5人以上) 	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・日南拠点 入塾者 10人 ○キャリアアップゼミや地域人材との交流面談を行い、塾生それぞれが希望する進路実現に向けた支援を行った。 <ul style="list-style-type: none"> ○中学校での郷土学習に補助員として関わり、ふるさと教育の推進を進めるとともに、中学生への入塾の動機づけとなった。
②青少年が地域で活躍できる場づくりに努める。	<ul style="list-style-type: none"> ・西部圏域における青少年事業への町内在住者の参加、交流 	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナの影響により、西社教主催「だいせん青春サミット」は中止となった。
③まなびや縁側のサテライトの開設と運営の充実に努める。		B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・中学3年生を対象と加えたことで、受験に向けた自主学習の場としての利用機会が多かった。 ○3町連携事業等を通じ、自己啓発やコミュニケーション力の向上につなげた。

(2) 体験活動の機会を提供				
目 標	成 果 指 標	評	評	実施状況 (・) 成果 (○) 課題 (▲)
①地域や地域人材、団体による連携の中で、活動の楽しさやふるさとの良さに気づけるような体験活動を実施する。	・まちづくり・むらづくり協議会等と協力した体験活動の実施	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・地域住民を講師に迎え講座を実施。 ・にちなんっ子クラブ 実施数19講座、参加者数418人 夏休みと冬休みの一部講座を中止。 ○県指定天然記念物サクラソウ現地見学会を開催し、地域の宝について学習する機会を設けた。
	・長期休業中の子ども体験活動の実施	A		

(3) 家庭教育の推進				
目 標	成 果 指 標	評	評	実施状況 (・) 成果 (○) 課題 (▲)
①家庭教育推進員を配置し、家庭教育の推進を図る。 ②親の育ちを応援する学びの機会を充実させる。 ③親子と地域のつながりを作る取り組みを進め、地域全体で子育てを応援する。	・家庭教育講演会の実施（学校・PTA等との連携） （年1回以上）	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭教育講演会【再掲】 会場参加39人 YouTube視聴179回 ○家庭教育講演会では、これからの時代の教育について講演頂き、新たな学びにつながった。

3 文化財、郷土芸能の保護と伝承

(1) 文化財、遺跡の調査ならびに保護

目 標	成 果 指 標	評 価	評 価	実施状況（・）成果（○）課題（▲）
①郷土の歴史的史料の収集・保存に努めるとともに、郷土資料館の所蔵品をはじめとする史料の整理を進める。 ②町の有形・無形文化財や遺跡についての調査や保護に努め、町民への啓発活動を行う。	・古文書及び歴史資料のデジタルデータを公開	C	B	<ul style="list-style-type: none"> ・公開のための機器整備を行った。 ▲データ入力および公開に向けた準備を進める。 ○新発見の遺跡を追加し、遺跡地図を更新した。 ▲遺跡地図の公開・周知について検討する。 ○オオサンショウウオの生息調査を実施し、生息状況の実態把握に努めた。 ○発掘調査を実施し、埋蔵文化財保護に努めた。
	・遺跡地図の情報更新と公開	B		
	・住民への情報提供、現地説明会の開催	B		

(2) 郷土資料館の資料を活用した町民への郷土史、文化財の周知と理解促進

目 標	成 果 指 標	評 価	評 価	実施状況（・）成果（○）課題（▲）
①所蔵資料の独自調査、研究を進めるとともに、その成果を町民に広く周知し、郷土の歴史に対する学習意欲の向上を図る。	・講座等の開催による郷土の歴史への興味関心と調査意欲の喚起	B	A	<ul style="list-style-type: none"> ○小学校と連携しオオサンショウウオについての学習で講義を行い興味関心の喚起を行った。 ○地域の老人クラブおよび百歳体操の機会に郷土史を学習する講義を実施した。 ○研究者へ所蔵資料の情報を行った。 ▲収蔵品の整理を進めること。
	・地域や団体と連携した学習機会の提供	A		

(3) 郷土芸能伝承のための支援

目 標	成 果 指 標	評 価	評 価	実施状況（・）成果（○）課題（▲）
①郷土伝承芸能等の保存伝承と後継者の育成に努める。また、文化財保存活用事業補助金により、文化財の保存・活用に対する支援を行う。	・無形文化財保護活動への支援	B	B	・文化財保存活用事業補助金の相談を受け、令和5年度の予算化を目指した。

4 図書館・美術館の充実

(1) 町民が求める資料、情報の提供

目 標	成 果 指 標	評 価	評 価	実施状況（・）成果（○）課題（▲）
①町民の求める資料や情報の提供に努めるとともに、広く町民に図書館の魅力と活用方法を積極的にPRし、利用者の増加を図る。	・図書館だよりやCATVなど、あらゆる媒体を活用した情報発信	B	B	▲図書館サービスやホームページの便利な機能などの継続的なPR ・参考業務 253件 ・予約リクエスト 1,460件 ・町民1人当たりの貸出冊数 4.0冊
	・参考業務（120件以上）、予約リクエストサービスの利用促進（1,800件以上）	B		
	・利用状況（実績）町民1人当たりの貸出冊数5.0冊	B		

(2) 子どもの読書活動・学習活動の支援				
目 標	成 果 指 標	評 価	評 価	実施状況 (・) 成果 (○) 課題 (▲)
①子どもが日常的に読書に親しむことができるよう環境整備に努める。	・おはなし会やブックトークなど子どもが本に親しみ、読書に興味を持つ取り組み	B	B	○こども園の保護者に毎月ミニチラシを配布することにより来館へとつながった。 ・おはなし会 図書館 7回、延46人 こども園 37回、延481人 子育て支援センター 11回、延83人 放課後児童クラブ 10回、延49人 ・ボランティアのための読み聞かせ講座 14人 ・保護者に向けた啓発活動 1回 ・児童書貸出冊数 12,871冊
	・保護者に向けた子どもの読書活動の啓発(年3回以上)	C		
	・利用状況(児童書貸出冊数12,000冊以上)	A		
②子どもの学習活動の充実のため、学校図書館支援など、学校との連携・協力を進める。	・図書を利用した学習活動の支援(各学年学期ごとに1回以上)	A	A	・学習用図書の貸出(小学校29回、中学校4回) ・学級貸出の入替(小1回/月、中1回/学期)
「日南町子どもの読書活動推進計画」の見直しを図り、その実践に努める。	・読書を取り巻く環境の変化に応じた計画の見直し	B	B	▲子どもの読書活動に関わる人への計画の周知と関係機関同士の連携強化を進める

(3) 地域活性化、基幹産業の発展に役立つ資料・情報の提供				
目 標	成 果 指 標	評 価	評 価	実施状況 (・) 成果 (○) 課題 (▲)
①町の基幹産業である農林業分野、地域振興や6次産業化に役立つ資料の一層の充実を図る。	・農林業、地域活性化コーナーの周知	C	B	▲幅広い資料の収集に努めているが利用につながっていないので、効果的なPRを行う。
	・農林業分野や地域振興、第6次産業に関する新書籍	B		

	の購入や資料収集の実施			
--	-------------	--	--	--

(4) 魅力ある展覧会の実施				
目 標	成 果 指 標	評	評	実施状況 (・) 成果 (○) 課題 (▲)
①多様な芸術文化に触れる機会を提供する。	・ 特色ある企画展と収蔵品を活用した魅力ある展覧会の開催 (企画展と収蔵品展 年6回開催)	A	A	・ 企画展4回、共催2回、所蔵品展1回 ○キルト展、木のアート展、書道展など、絵画だけでなく、幅広い分野の魅力ある展覧会に取り組んだ。
②郷土ゆかりの作家や作品を紹介し、広く情報発信を行う。	・ 佐武林蔵、足羽俊夫など、郷土ゆかりの作家や作品の展示事業の開催	B	B	○コレクション展において、所蔵品の魅力と理解を深めるため、鳥取県立博物館と連携した対話型鑑賞事業を行った。また、各展覧会において解説、作家によるワークショップ、技法体験などを行うなど普及事業に取り組んだ。 ○広報媒体をテレビとラジオCMに広げたことにより、効果的な集客へ繋がった。
	・ 絵画鑑賞をより深めるための展示説明や講演会、ワークショップなどの教育普及事業の実施	B		
	・ ポスター、チラシを作成し、広く配布するとともに、新聞、テレビ、ラジオ、ホームページやブログなどのあらゆる媒体を活用した情報発信	B		

(5) 郷土の文化、芸術活動の活用と保存				
目 標	成 果 指 標	評	評	実施状況 (・) 成果 (○) 課題 (▲)
①貴重な町内の芸術品を収集・調査し、適切に管理するとともに、特色ある所蔵品の充実を図る。	・ 美術品の収集 (購入、寄贈、寄託作品の受け入れ)	C	C	▲令和5年度には、春の企画展に合わせて美術品等選考評価委員会を開催し、寄贈品 (現代作家のクレパス画) の受け入れについて協議する。

②デジタルアーカイブ化したデータベースをホームページに掲載し、所蔵品情報を広く公開する。	・所蔵品のデータベース化	B	B	・所蔵する“現代作家のクレパス画”全作品のデジタル化を完了。 ▲公開方法を検討する。
----------------------------------------------	--------------	---	---	-----------------------------------------------

(6) 美術教育の普及

目 標	成 果 指 標	評	評	実施状況（・）成果（○）課題（▲）
①美術館が小学生から高校生を対象とした鑑賞教育の場としての役割を果たすため、学校との連携体制づくりを進める。	・ 図工や美術の授業を活用した鑑賞教室の実施	B	B	・ 学校と連携した対話型鑑賞の実施。 小6-1回、中2-1回。人権センター2回、子どものアトリエ等において複数回実施。 ○にちなん十色 山の上分園、根雨小学校、大山町公民館等でクレパス絵画教室を実施。

5 健康・体力づくり、スポーツ活動の推進

(1) 健康、体力づくりの推進

目 標	成 果 指 標	評	評	実施状況（・）成果（○）課題（▲）
① 町民が自らの健康や体力づくりに関心	・ 各競技部による大会の開催と協力	A	A	・ 体力運動能力調査 約20名測定

<p>を持ち、スポーツに親しめる環境づくりを進める。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・体力運動能力調査の実施と運動能力の現状把握 	<p>A</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・富田杯ソフトテニス大会 82名出場 ・ジュニアソフトテニス選手権 68名出場 ・日南町駅伝競走大会 73名出場 <p>○屋外開催の事業について、新型コロナウイルス感染対策を講じつつ、複数の大会を数年ぶりに開催できた。</p> <p>▲運動習慣が少ない方に対しても、興味や関心を持っていただける事業構築が必要と考える。</p>
<p>②関連機関と連携して、スポーツ活動の活性化やスポーツ推進委員の活動の充実を図り、各種スポーツの普及と振興、体力づくりを推進する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ推進委員によるニュースポーツ普及活動 ・スポーツ指導者の資質の向上に関する研修会等参加 	<p>A</p> <p>A</p> <p>B</p>	<p>○まちづくり協議会、PTA、百歳体操グループ等から、スポーツ指導の依頼を受け、ニュースポーツの普及活動を行った。前年度比2.6倍</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新規のニュースポーツ勉強会、町外での研修会に参加し、研鑽に努めた。 ・スポーツ推進委員活動 種目研修（モルック、ボッチャ、ウォーキングサッカー） 研修会 3回 出張指導 24回（のべ64名出張） 町事業への開催協力（体力調査、駅伝大会） 委員勤続30年表彰 2名（全国協議会より） <p>▲仕事などの理由により、出張指導や研修へ継続的に参加する委員が固定化している。参加しやすい機会の創出を検討したい。</p>

(2) 各競技団体の活動強化支援				
目 標	成 果 指 標	評 評	評 評	実施状況 (・) 成果 (○) 課題 (▲)
①各種スポーツ団体の活動の活性化及び自主的運営の促進を図る。	・日南町体育協会、日野郡体育協会等との連携	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・日野郡民体育大会出場 88名 ・県民スポーツレクリエーション祭出場 75名 ・本年度より、日南ジュニアバレーボールクラブが町スポーツ少年団へ加入した。 ▲日野郡民体育大会への参加者数、種目が減少傾向にある。郡体協事務局や事業の在り方について検討が必要。
	・日南町スポーツ少年団の育成と活動支援	A		
	・郡民体育大会、四県四郡市体育大会の支援、実施内容検討	B		
②日常的にスポーツ活動に親しむための団体育成に努める。	・各種スポーツ活動の取り組みの支援と活動の活性化	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・活力ある文化団体等支援助成 (スポーツ・運動団体の申請 8件) ・スポーツ大会等派遣費補助金 小学生3名の全国大会等への出場を補助 ○総合型地域スポーツクラブ「にちなんスポーツクラブ」が設立。5年度より事業開始。 ▲競技レベル等に関わらず、それぞれに合った形でスポーツや運動を楽しめる環境づくりを行うこと。

(3) 社会体育施設の運営管理				
目 標	成 果 指 標	評 評	評 評	実施状況 (・) 成果 (○) 課題 (▲)
①社会体育施設の適正な管理運営と利便性の向上に努める。	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的な施設管理の実施 ・社会体育施設を利用しやすい施設となるように整備 	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・武道館の屋根の修繕を行った。 ・体育館を町やスポーツ団体の情報発信の場とし

	、補修等を実施			でも活用するため、掲示物に係るルールを定め、各団体の広報物を積極的に掲示した。 ▲中長期計画に沿った修繕の実施
②中学校の部活動や各種団体が利用しやすい施設となるように、利用調整や施設整備に努める。	・体育施設利用調整の実施			・定期利用調整会 10月、3月に実施 ▲武道館、テニスコートの利用率向上に向けた施策が必要である。

6 「社会に開かれた教育課程」実現に向けた学校教育との連携

(1) 学校を核とした生涯学習の実践、学習成果の発表

目 標	成 果 指 標	評 価	評 価	実施状況（・）成果（○）課題（▲）
①学校を生涯学習の場として活用し、地域の人々と児童生徒との交流を図る。	・学校を活用した学習成果の発表の実施	C	C	・小学校空き教室の活用について、引き続き学校と協議を行った。 ▲具体的なルール設定、利用の開始
②各地域での生涯学習活動を地域学校協働活動として位置づけ、居住地域を越えた児童生徒の活動参加を促す。	・地域コーディネーターと連携し、地域人材を活用した教育活動の実施	C	C	▲まちづくり協議会主催の青少年向け事業を地域学校協働活動事業として位置づけ、居住地域を越えた児童・生徒の参加と地域住民の意識向上に努める。